

産業構造審議会 産業技術環境分科会 廃棄物・リサイクル小委員会 自動車リサイクルワーキンググループ

中央環境審議会 循環型社会部会 自動車リサイクル専門委員会

第47回合同会議

公益財団法人  
自動車リサイクル高度化財団



〔実施事業概要〕

2019年9月10日（火）

## (1) 財団の理念・目的と取組の考え方

### 1) 財団の理念・目的(目指す方向)

自動車リサイクルの高度化等に関する学術的・実践的調査・研究を行うとともに、資源の有効活用や環境保護等に関する研究及び事業への助成等を行い、もって将来の地球環境の保全、自然環境の保護・整備と循環型社会の推進に資することを目的とする。(定款第3条)

### 2) 目指す方向に向けた取組の考え方

財団においては、自動車メーカー等から出捐された基金を元に、以下のカテゴリにて事業を展開。

#### ①公募事業 (公募事業選考委員会)

自動車リサイクルの高度化等を目的に、民間会社、各種団体、大学等において行われる各種技術研究、開発、実証等の事業や、周知啓発活動の中から、**公募により、より実現性、事業性が高いと想定されるシーズ等を幅広く発掘し、支援**。得られた成果は**財団HPや関係業界の広報誌等により広く公表**することで、自動車リサイクルに関連する事業の活用・普及に役立てる。

#### ②自主事業 (自主事業業務委託委員会)

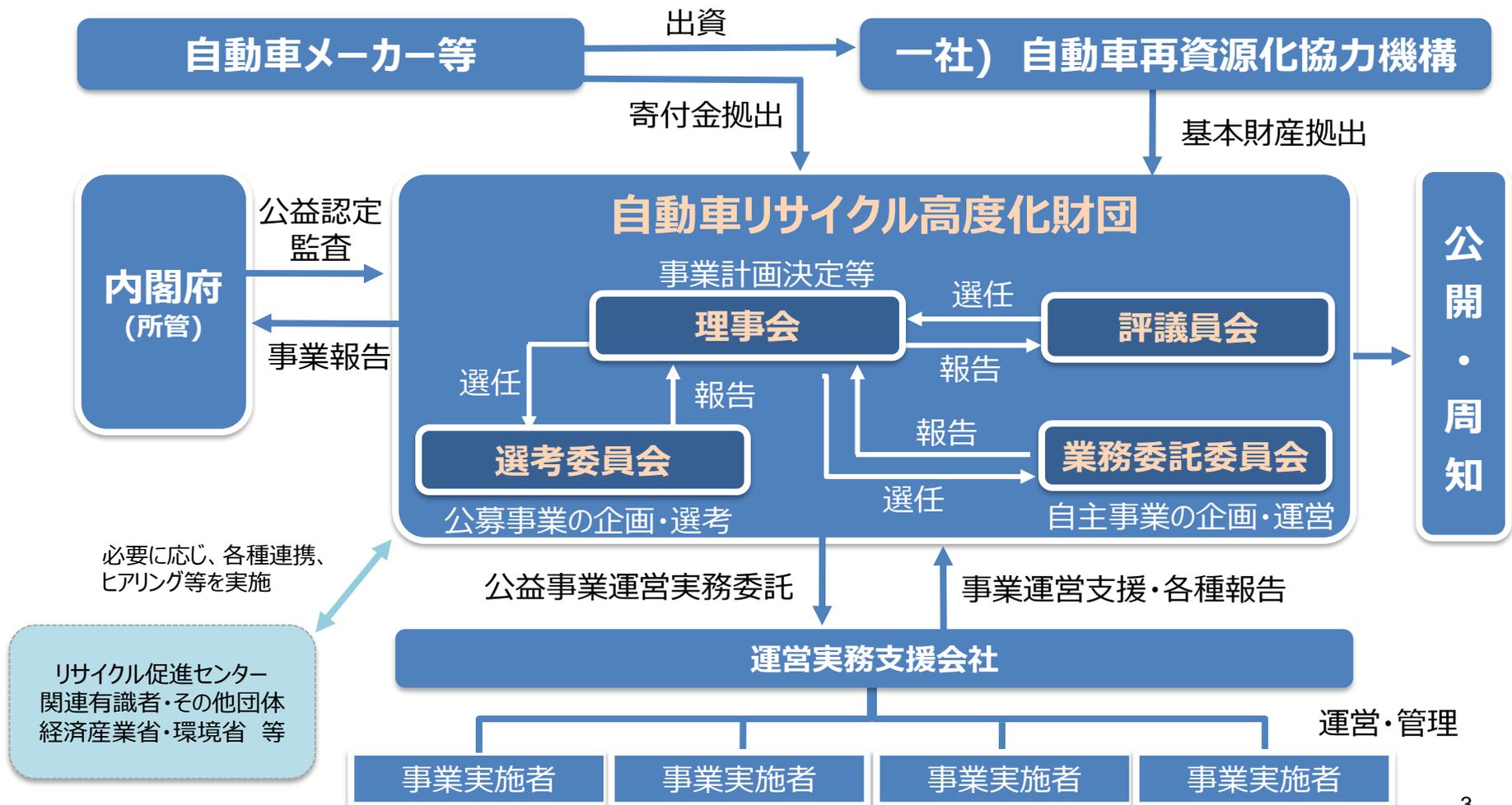
自動車リサイクルの高度化等の推進において、ベースとなるインフラの調査・整備をはじめ重点的に対策すべき課題が存在。これらに対応するため、**財団にてテーマ等設定し、事業内容を企画、委託先団体等と調整し、事業を実施**。得られた成果は公募事業と同様に活用役に役立てる。

## (2) 組織概要

名称	公益財団法人自動車リサイクル高度化財団 JAPAN FOUNDATION FOR ADVANCED AUTO RECYCLING
所在地	東京都港区新橋6-19-19 アセンド新橋 2 階
設立	2017年3月3日 2017年11月21日 公益財団法人に移行
代表理事	細田 衛士 中部大学経営情報学部教授、慶應義塾大学名誉教授
役員	理事5名、評議員6名
公募事業選考委員	13名
自主事業業務委託委員	7名
* 選考委員、業務委託委員は自動車リサイクルに知見を有する有識者や学識経験者により構成 (リサイクルの技術評価や事業性評価等が可能な識者など)	
事業内容	自動車リサイクルの高度化に資する各種公募事業、及び自主事業の 企画・運営

## (3) 組織関係図

- ・財団運営は全て規程類に基づき、透明性をもって理事会・評議員会等にて検討・決定され、情報も広く公開（特に事業結果は、他の事業者での活用等、水平展開できるように、可能な限り詳細に公表）



# 1. 財団概要

(参考：自動車メーカー等からの拠出額)

2019年3月31日現在

自動車メーカー等 名称	拠出額	
	2017年度	2018年度
スズキ 株式会社	450,000,000円	450,000,000円
ダイハツ工業 株式会社	280,801,133円	399,287,507円
トヨタ自動車 株式会社	520,000,000円	562,244,064円
日産自動車 株式会社	93,000,000円	93,000,000円
株式会社 SUBARU	242,559,000円	288,866,000円
本田技研工業 株式会社	473,486,407円	504,000,000円
マツダ 株式会社	212,169,990円	242,458,270円
三菱自動車工業 株式会社	—	200,000,000円
フォルクスワーゲングループジャパン 株式会社	200,000,000円	—
合計	2,472,016,530円	2,739,855,841円

※2019年度は日産自動車(株)より400百万円の拠出あり

## 2. 事業の状況まとめ

- ・これまでの公募・自主事業は下表のとおり。<公募事業8件、自主事業3件の計11件>
- ・特に樹脂に関しては、①品質面では自動車での活用の可能性があることがある程度判明したものの、②コスト面には課題あり、③供給面では今後更なる検証が必要である。

			代表事業者 ( )内；事業年度 /本年迄の支援額(億円)	事業テーマ	これまでの主な成果と課題（取組状況）	
公募事業	実証研究	樹脂	1	(株)矢野経済研究所 ( '17～'19/1.8)	解体段階からの樹脂部品取外しと自動車部品等への再生	<b>①品質</b> ・物性は新車部品として採用の可能性はある水準 ・指定部品取外しで臭素系難燃剤の混入防止も可能 ・量産時の物性のばらつきの抑止(工程管理)が課題  <b>②コスト</b> ・現在検証中、解体及び異物除去工数の低減、輸送の効率化と、物性及び化学物質に係る必要最小限の管理等によるコスト削減が課題  <b>③供給</b> ・現在検証中、品質・コストを満足させる安定した回収の仕組み作りが課題
			2	西日本オートリサイクル(株) ( '18～'19/0.7)		
			3	ハリタ金属(株) ( '18～'20/1.4)		
			4	(株)エコネコル ( '19～'21/0.8)		
		5	(株)マテック ( '18～'20/1.2)	解体段階からの樹脂・ガラス部品の取外しと再生		
		ガラス	6	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) ( '18～'19/0.5)	解体段階からのガラス取外しと再生	<b>①品質</b> ・グラスウール向け原料として利用可能であることを確認 <b>②コスト</b> ・現在検証中、破碎にてサイドガラスは効率的に回収可能、更なるコスト低減が課題 <b>③供給</b> ・現在検証中、解体事業者による協力拡大が課題

## 2. 事業の状況まとめ

		代表事業者 ( )内；事業年度 /本年迄の支援額(億円)	事業テーマ	これまでの主な成果と課題（取組状況）	
公募事業	普及啓発	7	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 ( '17～'19/0.12)	主に環境意識の高い層への自動車リサイクルに関する周知活動支援事業	①成果 ・他分野で普及啓発の経験が豊富な人材への自動車リサイクル施設見学等による認知度の向上、及び全消費者を対象とした、親しみやすい啓発冊子の作成等 ②課題 ・普及啓発を担えるリーダーの更なる育成、自動車関連事業者、保険会社、消費者といったステイクホルダーの更なる当事者意識の醸成
		8	NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット ( '18年度にて終了/0.05)		
自主事業	調査	1	一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ( '18～'20/0.96)	各種3R高度化に向けた取組みのベースデータとして、解体業界の概況、及び部品取外し状況等の実態把握	<取組状況> ・解体業界全体の概況把握のため、'19年3月同機構会員企業へアンケート調査を実施、取りまとめ中 ・今後、解体段階での部品取外しデータ収集、集計を実施
		2	(株)ブライトイノベーション ( '19/0.12)	LiB適正処理促進に向けた全国のリサイクル可能施設のインフラ調査・公開	<取組状況> ・文献調査により、LiBのリサイクル候補施設のリストを作成中 ・今後、リストアップされた事業者へアンケート、及び対面調査を行う事業者の絞込みを実施
	実証	3	(株)矢野経済研究所 ( '19～'21/1.04)	CFRP適正処理促進に向けた、CFRPの基礎燃焼特性等の基礎研究と実証	<取組状況> ・種々のサンプルについて燃焼試験により相互比較可能な燃焼データを体系的に収集し、データベース化を実施中 ・今後は、燃焼データからCF及びCFRPの燃焼に影響するパラメータの抽出と燃焼マップの作成及び模擬ASRを用いたCFRP燃焼実証試験を推進

### 3. 各事業の実施状況詳細 ① 公募事業

番号	公募 - 1	2019年度	継続
事業名	自動車由来樹脂リサイクル可能性実証	事業項目	ASRの削減等 【実証研究 - 樹脂】
代表事業者	(株)矢野経済研究所	主な協力事業者	いその(株) 豊田通商(株) (一般社団法人日本自動車工業会)
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新車向け再生樹脂の採用拡大に向けた、解体段階からの樹脂部品リサイクル実証を実施</li> <li>・品質改善方法、材料の安定供給に向けた体制等について実証しながらコスト検証を推進</li> </ul>	成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新材に対して競争力のある120円/Kg*での、自動車メーカーへの量産レベルでの再生樹脂の提供</li> </ul> <p style="text-align: right;">* 過去の新材最低価格レベル</p>
実施期間	2017年12月～2020年3月	事業経費 (J-FAR助成分)	2017年度 23,492千円(実績) 2018年度 54,394千円(実績) 2019年度 99,139千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・品質面では新車部品として採用の可能性はある水準を確認、また指定部品取外しで臭素系難燃剤の混入防止も可能であることを確認</li> <li>・実用化に向けて部品回収量20tを目標に、回収品の物性、コスト低減策を検証中、また、輸送コスト低減に向けても検証を実施中</li> </ul>	今後の成果の活用見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田通商(株)による解体業界での樹脂部品取外しの促進と自動車メーカー等での再生樹脂の採用による事業化</li> </ul>
報告書URL	(2017年度) <a href="https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2017report_YRI.pdf">https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2017report_YRI.pdf</a> (2018年度) <a href="https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_YRI.pdf">https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_YRI.pdf</a>		

### 3. 各事業の実施状況詳細 ① 公募事業

番号	公募 - 2	2019年度	継続
事業名	精緻解体による高品質樹脂リサイクルスキーム実証事業	事業項目	ASRの削減等 【実証研究 - 樹脂】
代表事業者	西日本オートリサイクル(株)	主な協力事業者	いその(株) 吉川工業(株) (一般社団法人日本自動車工業会)
事業概要	・全部再資源化の精緻解体段階で、再生樹脂材となる内外装の樹脂部品を分別回収、異材や異樹脂等の混入なく、自動車部品に再利用可能な高品質リサイクル樹脂の安定した生産スキームの構築を実証	成果目標	・樹脂押出法変更による物性高度化 ・自動車メーカーでの品質評価と自動車部品への採用 ・異材選別作業の改善による生産性向上によるコスト低減 ・北九州エコタウン内での集荷・リサイクル量の拡大
実施期間	2018年7月～2020年3月	事業経費 (J-FAR助成分)	2018年度 63,368千円(実績) 2019年度 6,559千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	・ELV由来樹脂(内装樹脂、バンパー等)を対象とした集荷地域及び量の拡大によるリサイクル事業性並びに品質の評価、再生材物性高度化の調査を実施中	今後の成果の活用見込み	・北九州エコタウン内での解体業界での樹脂部品取外しと自動車メーカー等での再生樹脂の採用による事業化
報告書URL	<a href="https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_WARC.pdf">https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_WARC.pdf</a>		

### 3. 各事業の実施状況詳細 ① 公募事業

番号	公募 - 3	2019年度	継続
事業名	水流選別活用による樹脂リサイクルの技術開発と設備導入及び普及	事業項目	ASRの削減等 【実証研究 - 樹脂】
代表事業者	ハリタ金属(株)	主な協力事業者	早稲田大学 日本シーム(株) 協和産業(株) エコメビウス(株) (一般社団法人日本自動車工業会)
事業概要	・水流選別装置による異物及び臭素系難燃剤を除いた樹脂の選別・回収と自動車部品の物性に合わせた再生PP樹脂のコンパウンド生産	成果目標	・水流選別装置を活用した低コストで歩留りの良い、ASRからの量産規模での再生樹脂の生産
実施期間	2018年7月～2021年3月	事業経費 (J-FAR助成分)	2018年度 60,554千円(実績) 2019年度 83,734千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水流選別装置にて選別した樹脂をコンパウンドすることで自動車部品への活用可能性を確認</li> <li>・臭素系難燃剤含有樹脂のある程度の選別も可能であることを確認</li> <li>・水流選別の精度向上のためのシミュレーションを実施し、装置の改良 及び 量産に繋がる研究開発を継続実施中</li> </ul>	今後の成果の活用見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ASRから再生樹脂を選別する水流選別装置の関係業界への普及、事業化</li> <li>・コンパウンダーによるASR由来再生樹脂の大量生産と自動車メーカー等での採用による事業化</li> </ul>
報告書URL	<a href="https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_Harita.pdf">https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_Harita.pdf</a>		

### 3. 各事業の実施状況詳細 ① 公募事業

番号	公募-4	2019年度	新規
事業名	ASR由来プラスチックの再生材利用に向けた設備システム開発	事業項目	ASRの削減等【実証研究-樹脂】
代表事業者	(株)エコネコル	主な協力事業者	(株)プラ2プラ (北九州市立大学)
事業概要	・比重選別による洗浄分離と臭素含有量分布の調査、X線による臭素含有樹脂の検知、選別、改良型押出機での高純度再生樹脂製造の実証	成果目標	・ASRから臭素含有プラを除去し、再生材を低コストで製造するプロセスの確立と自動車部品への採用
実施期間	2019年4月～2022年3月	事業経費 (J-FAR助成分)	2019年度 82,410千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	・ラマン多重選別回収装置、臭素含有プラ検知装置、ソーター用整列装置、二段式押出機を導入し実証中	今後の成果の活用見込み	・ASR由来再生樹脂の大量生産と自動車メーカー等での採用による事業化

### 3. 各事業の実施状況詳細 ① 公募事業

番号	公募 - 5	2019年度	継続
事業名	ASR 20%削減を目指した樹脂、ガラスの広域回収・高度処理	事業項目	ASRの削減等 【実証研究 - 樹脂、ガラス】
代表事業者	(株)マテック	主な協力事業者	北海道自動車処理協同組合 (株)ウインクリン (株)いその (株)サタケ (株)ダイオーエンジニアリング (一般社団法人日本自動車工業会)
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道地区解体業者と連携し、樹脂、ガラス部品を解体工程で回収、マテリアルリサイクルすることでASR発生量の削減を実証</li> <li>バンパーPPについて、塗膜除去することによるCar-to-Carリサイクルの可能性を検証</li> </ul>	成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹脂、ガラスの回収によるASR発生量20%削減</li> <li>回収コスト削減方法の確立</li> <li>回収樹脂、ガラスの売却先の確保</li> </ul>
実施期間	2018年7月～2021年3月	事業経費 (J-FAR助成分)	2018年度 35,942千円(実績) 2019年度 83,446千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹脂、ガラス部品の解体工程における回収によるASR削減効果</li> <li>解体事業者、破砕事業者の連携による効率的な広域輸送の検証</li> <li>バンパーPPの塗膜の除去による自動車樹脂部品原料への適用</li> </ul>	今後の成果の活用見込み	北海道地区での解体事業者による樹脂部品、ガラス取外しと自動車メーカー等での再生樹脂の採用、ガラスメーカーでのグラスウールへの採用による事業化
報告書URL	<a href="https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_Matec.pdf">https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_Matec.pdf</a>		

### 3. 各事業の実施状況詳細 ① 公募事業

番号	公募 - 6	2019年度	継続
事業名	地理条件及び選好・忌避成分に着目した自動車ガラス再資源化実証	事業項目	ASRの削減等 【実証研究 - ガラス】
代表事業者	三菱UFJリサーチ & コンサルティング(株)	主な協力事業者	(有)飯室商店 太平洋セメント(株) 東京製鐵(株) 東日本資源リサイクル(株) 西日本オートリサイクル(株)
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>再資源化方法に合わせて最適化されたガラス部位の精緻解体、グラスウール等の試作実証</li> <li>輸送コストを圧縮可能な地理的条件や運搬方法の明確化と採算性の検証</li> </ul>	成果目標	市場原理に基づく自動車ガラスの再資源化事業が可能となる条件の定量的な明示
実施期間	2018年7月～2020年3月	事業経費 (J-FAR助成分)	2018年度 20,117千円(実績) 2019年度 26,042千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済自動車ガラスがグラスウール向け原料として利用可能であることを確認</li> <li>破碎等の方法でガラスを効率的に回収可能であることを確認</li> <li>需給バランス、地理的条件及び運搬方法を考慮したロジスティクス、再資源化プロセスの実証を実施中</li> </ul>	今後の成果の活用見込み	採算性の合う事業モデルの提示による使用済自動車ガラスのグラスウールへのリサイクルの事業化
報告書URL	<a href="https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_MURC.pdf">https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_MURC.pdf</a>		

### 3. 各事業の実施状況詳細 ① 公募事業

番号	公募-7	2019年度	継続
事業名	自動車リサイクルに関する消費者への周知活動	事業項目	普及啓発
代表事業者	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会	主な協力事業者	なし
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車リサイクル啓発小冊子の作成と全国消費者、地域勉強会、消費者センターへの配布</li> <li>・地方セミナーの開催やシンポジウムの開催による普及活動</li> </ul>	成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車リサイクルへの積極的参加 及び 環境配慮設計の自動車の購入等、消費者の行動促進</li> <li>・シンポジウムによる関係者の理解の増進</li> </ul>
実施期間	2017年12月～2020年3月	事業経費 (J-FAR助成分)	2017年度 3,195千円(実績) 2018年度 4,338千円(実績) 2019年度 4,907千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者に期待される行動の検討、啓発ツールの小冊子を作成</li> <li>・自動車リサイクルのステイクホルダー及び消費者団体に協力・参加を働きかけ、10月に東京でシンポジウムを開催準備中</li> <li>・東北支部、西日本支部においてセミナーを開催準備中</li> </ul>	今後の成果の活用見込み	・作成した小冊子を配布した会員による更なる普及啓発活動
報告書URL	(2017年度) <a href="https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2017report_NACS.pdf">https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2017report_NACS.pdf</a> (2018年度) <a href="https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_NACS.pdf">https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_NACS.pdf</a>		

### 3. 各事業の実施状況詳細 ② 自主事業

番号	自主-1	2019年度	継続
事業名	使用済自動車の解体段階におけるベースリサイクル率の実態調査	事業項目	リユース・リサイクルの概況調査
代表事業者	一般社団法人日本自動車リサイクル機構	主な協力事業者	(株)コベルコ科研 神鋼リサーチ(株)
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用済車の解体段階での部品等の取り外し状況の調査、データベースの構築</li> <li>・解体業界全体の概況に関する調査</li> <li>・今後の自動車部品の3R向上に向けた課題の整理</li> </ul>	成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3R高度化に向けた各種取組のベースとなる解体業界の実態をデータベース化</li> <li>・金属部品及び樹脂部品の解体段階での取外し状況等を大規模かつ詳細に把握し、解体段階からのマテリアルリサイクルの量的可能性を明確化</li> </ul>
実施期間	2019年3月～2020年8月	事業経費	2018年度 1,891千円(実績) 2019年度 94,324千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解体業界全体の概況把握の為、'19年3月より同機構会員企業へアンケート調査を実施、取りまとめ中</li> <li>・今後、解体段階での部品取外しデータ収集、集計を実施</li> </ul>	今後の成果の活用見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車リサイクル関係企業での各種事業企画時に、解体業界の実態等の調査結果、及び現在の取外し部品の状況等の調査結果を活用し、有効な企画立案の一助とする</li> </ul>

### 3. 各事業の実施状況詳細 ② 自主事業

番号	自主-2	2019年度	新規
事業名	Li-ion電池(LiB)適正処理施設調査	事業項目	Li-ion電池(LiB)の適正処理
代表事業者	株式会社ブライティノベーション	主な協力事業者	(株)エンビプロ・ホールディングス
事業概要	<p>・文献、アンケート調査・対面調査等にてLiBの安全かつ適正な取扱い、及び 処理が可能なリサイクル候補施設を抽出</p> <p>※次年度では、抽出された候補事業者において、委託先を再入札のうえ、LiBの処理実証を実施予定</p>	成果目標	・日本国内におけるLiBの適正処理インフラ(リサイクル可能施設)の明確化
実施期間	2019年5月～2020年3月	事業経費	2019年度 12,000千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	・自治体にて廃棄物処理法に基づき優れた能力と実績を有する産廃処理業者として認定された優良認定事業者から候補事業者を抽出、リスト化を実施中	今後の成果の活用見込み	・全国のLiBリサイクル可能施設を広く公開することで、自動車用LiBの円滑なリサイクル促進のみならず、他産業LiBの適正処理促進にも活用されることを期待

### 3. 各事業の実施状況詳細 ② 自主事業

番号	自主-3	2019年度	新規
事業名	CFRP適正処理研究事業	事業項目	CFRPの適正処理
代表事業者	(株)矢野経済研究所	主な協力事業者	(株)東レリサーチセンター JFEテクノリサーチ(株) 日本化学繊維協会 一般社団法人日本自動車工業会
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>種々のCF（炭素繊維）及びCFRP（炭素繊維強化プラスチック）サンプルについて同一試験装置を用いて様々な燃焼条件（温度・酸素濃度等）で燃焼試験を実施し、相互比較可能な燃焼データを体系的に収集しデータベース化</li> <li>得られた燃焼データから燃焼に影響するパラメータを抽出し、燃焼マップを作成、燃焼データの解析からCF及びCFRPの燃焼速度実験式を導出</li> </ul> <p>※次年度は結果を踏まえた実証試験を実施予定</p>	成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正なCFRP処理方法を構築するために把握した基礎燃焼特性をもとに、実証試験を実施し、現存燃焼処理設備での燃焼処理の方向性等を設定</li> </ul>
実施期間	2019年4月～2020年3月	事業経費	2019年度 104,460千円(予算)
事業成果 (継続中のものは進捗)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種CFの収集及び物性等基本情報の整理、CF燃焼条件、及び燃焼状態の系統的なデータ収集、基準となるCFRP試験片の作成、CFRPの物性等基本情報の整理等を実施中</li> </ul>	今後の成果の活用見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎燃焼特性、CFRP混入ASRの燃焼マップ等を公開することにより、ASRのリサイクル施設での活用のみならず、各種産廃炉での他産業CFRPの適正処理促進にも活用されることを期待</li> </ul>

### 3. 各事業の実施状況詳細 ③ 終了分(公募事業)

全国の地域リーダーと共に実施する体験型普及啓発のための研修

- ① 代表事業者: NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
- ② 共同事業者: なし
- ③ 事業概要: 全国の地域環境活動リーダーを対象に研修実施  
周知活動時のツールやマニュアル等を作成し学習会を地域で開催
- ④ 事業期間: 2017年12月～2019年3月(2ヶ年)
- ⑤ 事業実績
  - ・ 地域開催学習会(2地域)の参加者募集と実施
  - ・ 学習会と今後の普及啓発の場で利用できる、自動車リサイクル制度の概要等を掲載したパンフレット付小冊子を作成
  - ・ 新宿西口イベント広場等、これまで3Rの普及啓発を実施していた場所でブース出展し来場者にアンケートやクイズ形式で自動車リサイクルの周知活動を実施
  - ・ 見学・学習会において、パンフレット付小冊子を配布
  - ・ 初年度参加のリーダーが自身の講座や会合の際に各地で小冊子を使い説明し、その報告書を回収
  - ・ 報告書から必要と思われる個所の的確な解説と時間別及びイベントにおける啓発方法等の小冊子活用マニュアルを作成しHPで公開中
  - ・ 一般向けの普及啓発活動としてイベントに出展、アンケート調査を通じた啓発活動を実施〔イベント概要〕  
イベント名: エコライフ・フェア 2018 (主催: 環境省)  
開催日程: 2018年6月2日(土)～3日(日) 開催場所: 代々木公園
- ⑥ 事業経費: 2017年度 2,738千円、2018年度 2,194千円 計4,932千円
- ⑦ 成果と今後の課題
  - ・ 施設見学と学習会の参加者は、事業に参加し、自動車リサイクルについての関心が高まった
  - ・ 本事業により関心が高まった人材に対して更なる学習、研修の機会を提供することが必要と考える
- ⑧ 報告書URL (2017年度) [https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2017report\\_Genki\\_r1.pdf](https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2017report_Genki_r1.pdf)  
(2018年度) [https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report\\_Genki.pdf](https://j-far.or.jp/wp-content/uploads/2018report_Genki.pdf)

